

コレクション展（常設展）「節子を詠む」関連行事
朗読会「短歌と絵画の調べ」
おやこでせつこっくクラブ「たんかであそぼ！」
を開催しました

日 時 平成30年10月21日(日) 午後1時～1時30分、1時45分～3時
参加者 「短歌と絵画の調べ」32名
「たんかであそぼ！」8名（小2：2名、小3：1名、保護者：5名）
職 員 長岡（学芸員補）

はじめに：短歌ポスト「節子を詠む」について

来館者のみなさまに三岸節子や節子作品、美術館について短歌を詠んでいただき、中部日本歌人会顧問・小塩卓哉先生を選者に、半年ごとに優秀作品を発表する好評企画「三岸節子を詠む」。短歌をつくるにあたっては、節子作品や節子について深く理解し、心に感じとる必要があるため、美術鑑賞力の向上が期待されます。今月から始まったコレクション展（常設展）「節子を詠む」では、開館20周年を記念し、昨年度までの10年間の歴代入選短歌全62首と、そこに詠まれた節子作品とをあわせて展示しています。

朗読会「短歌と絵画の調べ」

朗読家でフリーアナウンサーの石田麻利子さんに、節子作品の前で入選短歌を朗読していただくという、節子作品と短歌の両方を鑑賞できる大変贅沢な企画です。これまで常設展示室内でこういったイベントを開催することはありませんでしたので、開館20周年を記念した特別なイベントといえるでしょう。

鑑賞がより深まるよう、館職員が簡単に節子作品の解説をしたあと、石田さんに朗読していただきました。ゆったりとした優しい語り口調に、次第に作品世界に惹き込まれていくかのような感覚に陥りました。

あらためて節子作品の前で短歌を聴くと、多くの方が節子作品から「力強さ」や「生きる力」を感じ、希望や勇気、元気を得ていることが伝わってきました。



おやこでせつこっこクラブ「たなかであそぼ！」

いつもの「せつこっこクラブ」とは異なり、今回は親子での参加を呼びかけました。学校の授業で短歌を習うのは小学4年生からですが、参加者は2・3年生と、初挑戦の子たちばかり。保護者のみなさんも大半が学校を卒業以来短歌を詠む機会などなく、はじめは親子ともども苦戦している様子が見られました。

今回講師を務めていただいたのは、短歌ポスト「節子を詠む」の選者・小塩先生。中部日本歌人会顧問であり、学校の先生でもあります。短歌をつくるコツを、過去の短歌ポスト投稿作品等を例に、優しく熱心に教えていただきました。はじめは恥ずかしがっていたお子さんも、気づけば2首3首と、大人顔負けの上手な短歌をつくっていました。

最後はみんなの前で、自分のつくった短歌を大きな声で朗読し、どういう気持ちを歌に込めたかを発表しました。節子作品の新しい解釈や、細部まで観察し想像力を膨らませて詠んだ歌もあり、感心させられるものばかりでした。短歌を詠むという行為を通じて、みごとに美術鑑賞力が高まったといえるでしょう。

短歌ポスト「三岸節子を詠む」は随時応募を受け付けていますので、どなたでもぜひ挑戦してみてください。(長岡)

